

文化財 NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→

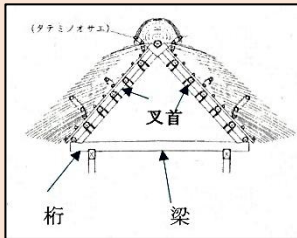


文化財パトロール 番外編 ～ 南会津町 ～

12月21日(土)南会津町南郷地域において、県指定文化財の旧山内家住宅の見学会が行われました。旧山内家は、令和5年2月、かやぶき屋根を支える骨組みが雪の重みで壊れてしまい、修繕工事が行われていました。そのため、今年度の化財パトロールで巡回する予定でしたが、外側しか確認できていませんでした。修繕が完了した報告も兼ねて行われた今回の見学会では、雪害の状況や修繕工事の内容だけではなく、旧山内家住宅が建築された頃の人々の生活についてもお話を聞くことができました。

修繕前

雪害では、叉首(さす)10本と梁(はり)1本が折れていたそうです。



修繕後

今回の修繕では、破損した箇所だけではなく、全体的に材の交換が行われたとのことでした。使われた木材は、薄めた墨汁を2回塗り、黒く仕上げたということで、外見からは修繕したことは全く分かりません。

また、屋根を煙でいぶして耐久性をもたせたり、障子に油を塗って防水性をもたせたり、照明をLEDに変えたりと、大切な文化財を永く保存するために、様々な工夫をしているということがわかりました。



旧山内家住宅

旧山内家住宅は、宝暦3年(1753年)の建築と伝えられ、江戸時代中期から鶴巣村(旧南郷村鶴巣地区)の名主を代々務めた上層農民の住居です。

奥座敷(儀式や行事、客間に用いられた)があったり、畳敷きになっていたりと、一般農民の住居とは形状や間取りが異なるのが特徴です。

見学会当日は、見学されていた方も交えて、名主に仕えていた使用人のことや南会津で作られる火伏の呪具の精巧さなど、様々な情報交換が行われていました。地域の人にとって、昔を思い出すよい機会になっていました。

